

Investment Management Technology

Putnam Goes Live with Barra's Models for Enterprise Risk

ボストンに拠点を置く Putnam Investments は社内のリスク管理部門の機能強化のためバーラ社の統合リスク管理システム、TotalRisk を採用しました。1999 年 5 月現在、24 人の社員が同システムを利用しています。3160 億ドルを運用する同社は、今年度末までにモデルの利用者数を社内のポートフォリオマネージャー、リサーチアナリスト、トレーダーを中心に 100 名以上に広げていく予定です。

同社のヴァイスプレジデント、Kevin Divney 氏によると、同社のポートフォリオマネージャーはこれまでもバーラ社の株式モデル (Aegis) と債券モデル (Cosmos) を個々のポートフォリオのエクスポージャー管理のために利用していました。Aegis や Cosmos でつかわれているデータや分析モデルが TotalRisk では統合されています。Aegis や Cosmos では個々のポートフォリオのレベルでの分析にとどまっていたのに対し、TotalRisk では情報及び分析が統合されたため、資産クラスをまたがる分析・比較が可能となりました。特に、ポートフォリオマネージャーやリスク管理部門が個々のポートフォリオと会社全体の資産構成を比較する手段を得ました。

さらに同社は社内のオプション評価グループとクオンツ分析グループからのデータ情報も統合しています。すべてのデータソースとポートフォリオの分析手法が統合されることにより、より確かなリスク分析及び管理が可能となりました。彼は、「TotalRisk を利用することにより、社内の異なる部署から統合されたすべての情報を把握することができるようになった。」と述べています。

商業銀行と投資銀行においては長年の間リスク管理に対して全社的アプローチをとる必要が必然的にありました。これに比べて、資産運用会社は法的規制がされていなかったこともあり、そのようなリスク管理の実践に関しては動きが遅かったように思われます。そういった傾向も今では変わりつつあります。

同社はリスク管理を株主に対する義務とみなしています。資産運用業界において、多くのポートフォリオマネージャーがベンチマークを超える収益を追求する中で無意識のうちに意図しないリスクを負っているという状況が蔓延しています。しかし、個々のポートフォリオマネージャーは概して、投資戦略を練るのに忙しすぎて、トレード後のパフォーマンスおよびリスク分析に十分に時間を割くことができません。同社の目標は、あまりに大きなリスクを負うことを避ける一方で、ポートフォリオマネージャーの日々の投資判断をできる限り妨げないことです。TotalRisk は、企業のリスク管理部門がポートフォリオのパフォーマンスといかにそのパフォーマンスが得られたかについてマネージャーと協議する際に利用される有効なツールの一つとなっています。

バーラ社の Aamir Sheikh 氏は、TotalRisk はポートフォリオマネージャーがトラッキングエラー (ベンチマークからの乖離) を避ける際の一助になると言います。実際個々のポートフォリオをベンチマークに照らし合わせて分析すること自体は新しい考えではないが、企業全体を通してこの分析プロセスを集約する考え方はごく最近、発展してきたものだと言っています。

さらに、同氏は全社的なリスク管理は証券取引においてトレード前及びトレード後のプロセス双方において必要となり得ると言います。また、バイサイドのエンドユーザー、特に年金プランでは投資銀行とは異なるリスク管理のゴールを持っている点は注意すべき点です。ブローカーが単にトレードする様々なタイプの証券のリスクを分析するのに対し、年金プランのスポンサーはより長い期間を念頭においてリスクを見ています。

例えば、スポンサーは現在の資産構成及び運用の予測リターンだけに注意を払うだけではなく、運用ポートフォリオが年金加入者の退職年金をカバーできるかどうかの長期的な充足性をも評価しなければなりません。ソフトウェアのベンダーがこのようなバイサイドの特別な問題を扱っている現在、マネージャーやプランスポンサーによるリスクアプリケーションの利用度はさらに向上すると思われる。